

## ■中池見湿地保全活用計画策定委員会【第4回】

### [議事録]

日 時：平成 27 年 5 月 27 日（水）14：40～17：40

場 所：敦賀市役所 4 階 講堂

出席者：【委員長】

村上哲生（中部大学 応用生物学部 教授）

#### 【副委員長】

山本博文（福井大学 教育地域科学部 教授）

笹木進（NPO 法人 ウェットランド中池見 事務局）

藤木康夫（NPO 法人 中池見ねっと）※代理

#### 【委員】

池本政夫（一般社団法人 敦賀観光協会 事務局長）

福田新八（敦賀美方農業協同組合 営農部営農課）※代理

坂口秀富（樫曲農家組合 組合長）

常富豊（環境省中部地方環境事務所 統括自然保護企画官・野生生物課長）

野坂雄二（福井県安全環境部 企画幹（自然環境））

福田真由子（公益財団法人 日本自然保護協会）

前田凱彦（れいなん森林組合 副組合長）

松村俊幸（福井県自然保護センター 所長）

室敬士（敦賀商工会議所 副会頭）

#### 【事務局】

市民生活部 鳥羽部長、政策推進課 池田課長、農林水産振興課 又農専門員、教育政策課 北川指導主事、文化振興課 山本課長、都市政策課 山田課長、環境・廃棄物対策課 田辺課長、宮本課長補佐、西澤係長、糸野主事、中池見人と自然のふれあいの里 杉本館長、(株)BO-GA 関岡、坂口、樋口

---

### [委員会]

#### 1 あいさつ

- 中池見湿地保全活用計画策定委員会の開催にあたり、鳥羽部長より、以下のあいさつがあった（敦賀市長あいさつ文代読）。
  - ご出席の委員の皆さまには、敦賀市政へご支援いただき、ありがとうございます。
  - この度、第 22 代目の市長に就任し、3 つのビジョン（新しい「元気」づくり、新しい「地域・人」づくり、新しい「安全・安心」づくり）を掲げ、魅力と活力あふれるまちづくりに取り組むこととしている。この 3 つのビジョンの推進にあたっては、中池見湿地の保全活用が大きく関係していると考えている。
  - 5 月 8 日には、中池見湿地付近の新幹線ルートの変更が公表され、中池見湿地の水

環境等に影響の少ないルートに変更になった。

- ・ 5月14日には、中池見人と自然のふれあいの里へ来園者が20万人を超え、市街地から近い自然観光スポットとして注目を集めており、湿地の保全、敦賀再生の実現に向けた大きなモチベーションとなると考えている。
- ・ 昨年度は、当委員会委員の皆様、関係団体・市民の皆様のご協力により『中池見湿地保全活用計画【構想・基本計画】』が策定された。今年度は、【実施計画】の策定へと進むことになる。【実施計画】では、作業項目、役割分担等を明確にし、中池見湿地保全の推進母体となる協議会のあり方についてもご議論いただきたい。
- ・ 中池見湿地から、敦賀市全体に元気が広がるように、ご協力、ご支援を賜るようお願い申し上げます。

## 2 委員等紹介

- ・ 事務局・田辺課長より、委員の出欠状況、人事異動に伴う新たな委員交代について紹介があった。
- ・ 第4回委員会には、委員18名のうち13名の出席があった。

## 3 副委員長選任

- ・ 委員会設置要綱（第4条）及び、第1回委員会の結果を踏まえ、副委員長を笹木委員から岡本委員に変更することとなった（満場一致で承認された）。

## 4 諮問

- ・ 敦賀市中池見湿地保全活用計画【実施計画】の策定について、鳥羽市民生活部長が村上委員長に諮問し、村上委員長はこれを了解した。

## 5 委員長あいさつ

- ・ 第4回委員会の開催にあたり、村上委員長より、以下のあいさつがあった。
  - ・ 昨年度は、委員皆様、ワーキンググループ皆様にご協力いただき、中池見湿地の保全活用について“大筋”をつけることができた。
  - ・ 今年度は、その具体化について、昨年以上に議論を尽くしたい。
  - ・ 中池見湿地を将来に残すため、皆様のご協力をお願いしたい。

## 6 議事

- ・ 委員会設置要綱（第5条第1項）に従い、委員長が議長となり議事進行した。

### 【議事1】

- ・ 事務局より、平成26年度に策定した『中池見湿地保全活用計画【構想・基本計画】』の内容について説明があった。

- 議事 1 について、以下の質疑応答があった。

- (委員) 中池見湿地には、かつてたくさんの水草が生え、それにより多様な水生昆虫がいた。このような様子は、福井県内で中池見湿地が随一であった。【構想・基本計画】の生物の特徴の箇所に、水草について記述があってもいいのではないか。県内でも中池見湿地にしか生育していないものもある。

⇒ (委員長) 昨年度の委員会、ワーキンググループにおいて、具体的な計画は、【実施計画】策定時に議論することとなった。よって、今年度のワーキンググループにおいて、是非、具体的なご意見をお願いしたい。

- (委員) 資料に掲載されている中池見湿地保全活用マップに、新幹線の変更ルートを入れてはどうか。

⇒ (委員長) 今後の議論に用いる資料には、新幹線の変更ルートを入れることとする。

## 【議事 2】

- 事務局より、【実施計画】の目次及び検討のスケジュールについて説明があった。

- 議事 2 について、以下の質疑応答があった。

- (委員) ワーキンググループの進め方としては、中池見湿地の問題点をはじめに共有した上でワーキンググループで議論してはどうか。

⇒ (委員長) 初回のワーキンググループにおいて、何を議論すべきかを議論することとする。

- (委員) 勝山の恐竜博物館では、県が多額の予算をつけている。ラムサール湿地中池見にも予算をつけ、県の観光行政としての位置付けをしっかりとっていただきたい。県、市のバックアップをしっかりとしてほしい。「計画は立てるが、資金がない」ということにはならないようにしていただきたい。

⇒ (委員) 資金のことは重要である。県内のラムサール湿地としては、三方五湖で、国の予算もいただいて自然再生を進めている。県としては、中池見湿地も重要な湿地という認識で、できるだけのことを実施したい。

⇒ (委員) ラムサール湿地の管理は、自治体で実施することが基本となっている。例えば、藤前干潟では名古屋市が費用負担している。「ラムサール湿地としては、先行して取り組んでいる三方五湖から学ぶ」ということがあってもよいと思う。国の資金を確保するには、具体的に、何を目的に何をするのかが明確な【実施計画】であることが大切である。国としては、国定公園内での希少種保全や自然再生の枠組みでの支援が考えられる。

⇒ (委員) 三方五湖を参考にというが、敦賀市はラムサールに登録されて、何故すぐに計画を立てなかったのか。何故、三方五湖に学ばねばならないのか。市がしっかりと努力すべきだ。三方五湖に負けないようにしっかりと頑張るべきだ。

⇒（委員）県としては、国定公園になっていることから施設整備として協力できることがあると思う。

### 【議事 3】

- 事務局より、中池見湿地保全活用推進の仕組み及び中池見保全活用基金の推移について説明があった。
- 中池見ねっとより、中池見湿地において現在おこなわれている事業内容について説明があった。
- 議事 3 について、以下の質疑応答があった。
  - （委員）中池見湿地の管理運営全てが、委託の中に含まれているのか。
    - ⇒（事務局）ほぼ全てが委託の中に含まれている。
    - ⇒（委員）仕様書の中身は、どうなっているのか。
    - ⇒（事務局）仕様書の中に、全て細かく記載している。
    - ⇒（委員）感想として、大変な管理をされていると思う。藤前干潟に比べると、出費している費用は同程度であるが、やっておられる内容は多いと思う。委託費は、むしろ安いと感じている。必要なことはやっておられると思うので、どうやって費用を確保するかだと思う。
    - ⇒（委員）中池見に関わる予算は、市として支出はしているのか。大阪ガスからの基金を使っているだけか。
    - ⇒（事務局）大規模な整備以外は、基本的に基金を取り崩しており、別途の予算は無い。
  - （委員）平成 28 年 3 月に、【実施計画】について市長に答申した後は、誰が運営するのか。
    - ⇒（委員長）協議会の設立をこの委員会で検討し、協議会ができた後、委員会が解散となることを想定している。
  - （委員）昨年度策定した【構想・基本計画】では、植生管理の手法についてどのように記載したのか。
    - ⇒（事務局）【構想・基本計画】では、具体的な内容を示していない。
    - ⇒（委員）ワーキンググループの中では、専門的な観点に基づいたうえで、植生管理についての作業を軽減することと、水位管理をどうするかということを議論していただきたい。ワーキンググループにも専門家に入ってもらってはどうか。
    - ⇒（委員長）水位をどうするかは、まだわからない中での議論になっている。
    - ⇒（委員）順応的管理を模索しつつ、モニタリングもしながら進めてはどうか。
  - （委員）順応的管理として、水位の議論がある。目指す方向性をどうするかを整理する必要がある。勝山市でジオパークをやっているが、勝山市でも同様に資金には悩んでいる。敦賀市は基金があるが、常に安定した資金の確保について、今のうち

に何とか考えておく必要があると思う。

- ・（委員）観光の面から考えて、どうやって売り出していくのか、人を集めるのか、また、自然をしっかりと残しながらみていただくという活動を考えたい。ただ、「トンボだけ」では無理なので、何かと結びつけながら観光資源としていくのではないかと考える。観光客の滞在時間を長くできるような活用方法をワーキンググループの中で議論していただきたい。
- ・（委員）中池見湿地の広報活動が、今は無いと感じている。周囲に知らせることをもっと取り組むことを要すると思う。人が集まらないところにお金は集まらないので、もっと人が集まる努力を要すると思う。
- ・（委員）水門の管理は重要である。江の水位を下げすぎないようにする必要があると思う。水位と生態系の関係を見ていかなければと思っている。
- ・（委員）昔から中池見のことを知っているが、水門から保全計画区域の水路は、以前はもっと浅い水深だった。また、水門から下流の水路をみると、以前の水位は浅かったが、今は水深が深くなっているので、水路の整備（水路の高い部分の土を上げる）をすることによって保全計画区域の水路の水位が下がり、池は広がっていかないと思う。

## 7. あいさつ

（山本副委員長）

- ・今後、中池見をどうしていくかはとても大切な議論である。勝山では恐竜博物館があり県は金をかけているが、儲けてもいる。今の姿をより良くするためにどうするべきか、お金のことも含めて考える必要があると思う。

（藤木代理）

- ・岡本氏の代理ではあるが、皆さまの真摯なご意見を聞き、やはり我々がやっていることは大切だと思った。また、課題の多さと深さを感じている。